

L4 ANSWER 8 OF 36 CAPLUS COPYRIGHT 2003 ACS

AN 1994:534147 CAPLUS

DN 121:134147

TI Preparation of imidazo[1,5-a]pyrimidines and their use as fungicides

IN Irikura, Tsutomu; Suzue, Seigo; Murayama, Satoru; Kinoshita, Susumu

PA Kyorin Seiyaku Kk, Japan

SO Jpn. Kokai Tokkyo Koho, 6 pp.

CODEN: JKXXAF

DT Patent

LA Japanese

FAN.CNT 1

	PATENT NO.	KIND	DATE	APPLICATION NO.	DATE
PI	JP 06049070	A2	19940222	JP 1991-205621	19910723
PRAI	JP 1991-205621		19910723		

OS MARPAT 121:134147

AB Imidazo[1,5-a]pyrimidines I [A = (un)substituted thienyl] and their salts, useful as fungicides, are prepd. by treatment of (thenoylaminoethyl)pyrimidines II (A = same as above) with condensation agents. Refluxing 1.3 g II (A = 2-thienyl) with POCl₃ for 3 h gave 0.56 g I (A = 2-thienyl), which inhibited *Candida albicans* 3147 at MIC 3.13 .mu.g/mL. MIC values against *Microporus canis*, *Aspergillus fumigatus*, and *Tricophyton mentagrophytes* are also disclosed.

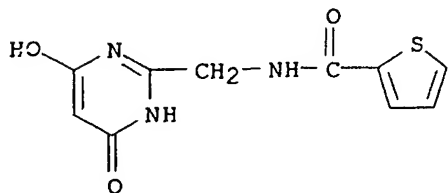
IT 103053-68-5P 103053-71-0P 103053-72-1P

103053-73-2P 103053-74-3P

RL: RCT (Reactant); SPN (Synthetic preparation); PREP (Preparation); RACT (Reactant or reagent)
(prepn. and intramol. cyclocondensation of)

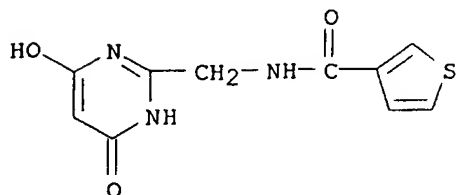
RN 103053-68-5 CAPLUS

CN 2-Thiophenecarboxamide, N-[(1,4-dihydro-6-hydroxy-4-oxo-2-pyrimidinyl)methyl]- (9CI) (CA INDEX NAME)



RN 103053-71-0 CAPLUS

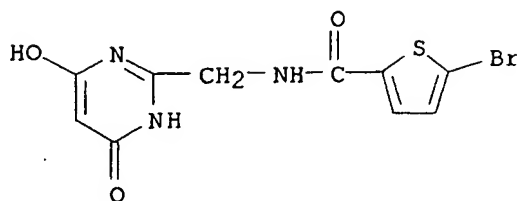
CN 3-Thiophenecarboxamide, N-[(1,4-dihydro-6-hydroxy-4-oxo-2-pyrimidinyl)methyl]- (9CI) (CA INDEX NAME)



RN 103053-72-1 CAPLUS

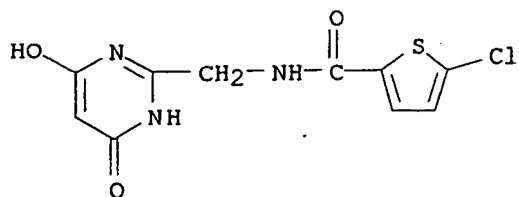
CN 2-Thiophenecarboxamide, 5-bromo-N-[(1,4-dihydro-6-hydroxy-4-oxo-2-

pyrimidinyl)methyl]- (9CI) (CA INDEX NAME)



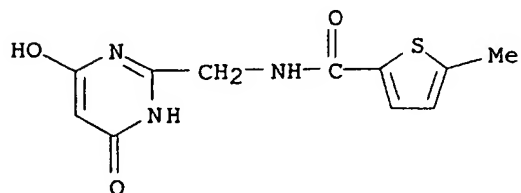
RN 103053-73-2 CAPLUS

CN 2-Thiophenecarboxamide, 5-chloro-N-[(1,4-dihydro-6-hydroxy-4-oxo-2-pyrimidinyl)methyl]- (9CI) (CA INDEX NAME)



RN 103053-74-3 CAPLUS

CN 2-Thiophenecarboxamide, N-[(1,4-dihydro-6-hydroxy-4-oxo-2-pyrimidinyl)methyl]-5-methyl- (9CI) (CA INDEX NAME)



[Generate Collection](#)[Print](#)

Search Results - Record(s) 1 through 1 of 1 returned.

☐ 1. Document ID: JP 06049070 A

L2: Entry 1 of 1

File: JPAB

Feb 22, 1994

PUB-NO: JP406049070A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 06049070 A

TITLE: IMIDAZO(1,5-A)PYRIMIDINE DERIVATIVE

PUBN-DATE: February 22, 1994

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

IRIKURA, TSUTOMU

SUZUE, SEIGO

MURAYAMA, SATORU

KINOSHITA, SUSUMU

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

KYORIN PHARMACEUT CO LTD

APPL-NO: JP03205621

APPL-DATE: July 23, 1991

US-CL-CURRENT: 544/281

INT-CL (IPC): C07D 487/04; A61K 31/505

ABSTRACT:

PURPOSE: To obtain a new imidazo[1,5-a]pyrimidine derivative useful as an antimycotic for animals and fishes and a food preservative.

CONSTITUTION: The compound of formula I [A is (substituted) thienyl], for example, 2,4-dichloro-6-(2-thienyl)imidazo[1,5-a]pyrimidine. The compound of formula I is obtained by treating a thienoylaminomethylpyrimidine derivative of formula II with a condensing agent. The starting substance of formula II is new and obtained by starting the operations with the reaction between A- COCl and NH₂CH₂COOR₄.HCl.

COPYRIGHT: (C)1994, JPO&Japio

Full	Title	Citation	Front	Review	Classification	Date	Reference	Sequences	Attachments
Draw Desc	Clip Img	Image							

KMC

[Generate Collection](#)[Print](#)

(19)日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平6-49070

(43)公開日 平成6年(1994)2月22日

(51)Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	FI	技術表示箇所
C 0 7 D 487/04	I 4 4	7019-4C		
// A 6 1 K 31/505	ADZ	9360-4C		

審査請求 有 発明の数3(全 6 頁)

(21)出願番号	特願平3-205621
(62)分割の表示	特願昭59-165468の分割
(22)出願日	昭和59年(1984)8月7日

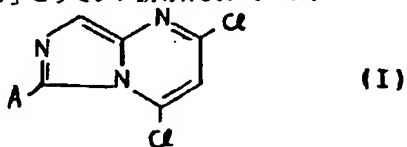
(71)出願人	000001395 杏林製薬株式会社 東京都千代田区神田駿河台2丁目5番地
(72)発明者	入倉 勉 東京都練馬区大泉学園町7丁目10番28号
(72)発明者	鈴江 清吾 埼玉県久喜市青葉4丁目13番地の4
(72)発明者	村山 哲 栃木県下都賀郡野木町大字友沼6095番地
(72)発明者	木下 進 栃木県下都賀郡野木町大字友沼卯ノ木5932番地
(74)代理人	弁理士 箕浦 清

(54)【発明の名称】 イミダゾ[1, 5-a]ピリミジン誘導体

(57)【要約】

【目的】 より有用性の高い抗真菌剤の開発。

【構成】 次の一般式(I)で示されるイミダゾ[1, 5-a]ピリミジン誘導体及びその塩。

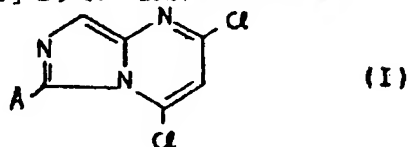


[式中Aは置換されていてもよいチエニル基を表わす]

1

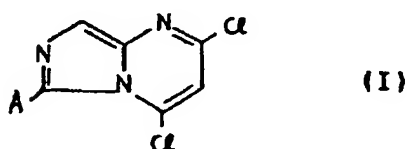
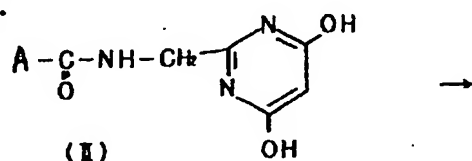
【特許請求の範囲】

【請求項1】 一般式(1)で示されるイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体およびその塩。



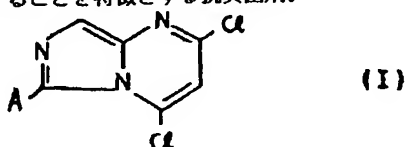
【式中、Aは置換されていてもよいチエニル基を表わす。】

【請求項2】 一般式(II)で示されている化合物を縮合剤で処理することを特徴とする一般式(1)で示されるイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体の製造方法。



【式中、Aは置換されていてもよいチエニル基を表わす。】

【請求項3】 一般式(1)で示されるイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体又はその塩を有効成分として含有することを特徴とする抗真菌剤。

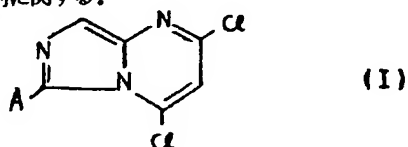


【式中、Aは置換されていてもよいチエニル基を表わす。】

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、一般式(1)で示されるイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体およびその塩に関する。さらに詳しくは抗真菌活性を有するイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体およびその塩、それらの製造方法ならびにそれを有効成分として含有する抗真菌剤に関する。



2

【式中、Aは置換されていてもよいチエニル基を表わす。】

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】近年、広域抗生物質、ステロイドホルモン剤、制癌剤、免疫抑制剤等の汎用により世界的に真菌症が増加しているが、これに有効な薬剤は少ない。現在治療に使用されている薬物は、ポリエンマクロライド系およびイミダゾール系化合物程度であって、さらに有用性の高い抗真菌剤の開発が望まれている。

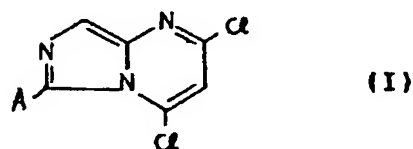
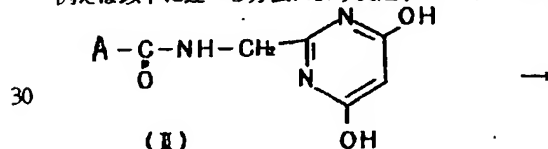
【0003】

【課題を解決するための手段】そこで、本発明者らはより有用性の高い抗真菌剤を開発すべく鋭意研究を重ねた結果、これまでに知られている抗真菌剤とは基本構造を全く異にした新規なイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体が広範囲な真菌に対し既存品よりも強力な活性を有することを見出した。

【0004】本発明の一般式(1)で示される化合物およびその塩は文献記載の新規化合物であって、抗菌作用特に真菌類に対する抗菌活性が強く、医薬のみならず動物用薬、魚介用薬、食品防腐剤として種々の形態で使用する事ができる。

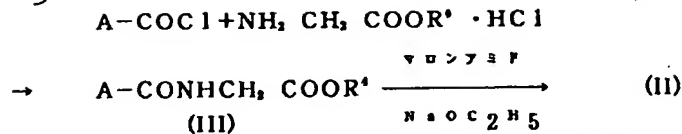
【0005】一般式(1)で示される化合物の塩としては、例えば塩酸、硫酸、酢酸、酒石酸、メタンスルホン酸の如き無機もしくは有機酸との塩があげられる。

【0006】本発明の一般式(1)で示される化合物は例えば以下に述べる方法により製造することができる。



【式中、Aは前記に同じ。】即ち一般式(II)で示されるテノイルアミノメチルピリミジン誘導体と縮合剤例えば塩化リン、オキシ塩化リン、塩化チオニル等で処理することにより一般式(1)で示されるイミダゾ[1,5-a]ピリミジン誘導体を得ることができる。

【0007】これらの反応の出発物質であるテノイルアミノメチルピリミジン誘導体(II)も新規物質であって下記の経路により製造される。



[式中、R¹ は低級アルキル基を表わす。] すなわちグリシンエステル塩酸塩と種々の塩化テノイル誘導体を反応させて得たN-アシル誘導体 (III) をエタノール中で塩基の存在下に、マロンアミドと縮合させることにより前記の誘導体 (II) を得ることができる。

【0008】

10 【表1】

【発明の効果】次に本発明化合物の抗真菌活性を表1に*

抗真菌活性

試 験 菌 株	最 小 発 育 阻 止 濃 度 (MIC, $\mu\text{g}/\text{ml}$)				
	実施例1	実施例2	実施例3	実施例4	実施例5
キャンディダ アルビカンス (<i>Candida albicans</i> 3147)	3.13	3.13	0.78	0.20	1.56
キャンディダ アルビカンス (<i>Candida albicans</i> IFO-1310)	1.56	6.25	0.78	0.78	6.25
キャンディダ アルビカンス (<i>Candida albicans</i> IFO-1334)	1.56	3.13	3.13	0.20	6.25
キャンディダ アルビカンス (<i>Candida albicans</i> MTU-12124)	6.25	6.25	0.78	1.56	3.13
キャンディダ アルビカンス (<i>Candida albicans</i> KYF-102)	6.25	12.5	3.13	0.39	6.25
キャンディダ ステラテデア (<i>Candida stellatoides</i> IFO-1330)	1.56	6.25	0.78	0.78	1.56
ミクロスポルム カニス (<i>Microsporum canis</i> 200140)	1.56	1.56	0.78		
アスペルギルス フミゲータス (<i>Aspergillus fumigatus</i> MTU-06102)	6.25	3.13	3.13		
トリコフィトン メンタグロフィーテス (<i>Trichophyton mentagrophytes</i> MTR-19003)	1.56	1.56	1.56	0.78	1.56
トリコフィトン メンタグロフィーテス (<i>Trichophyton mentagrophytes</i> MTR-19005)	1.56	0.78	0.78	0.78	1.56

【0010】次にマウス (ICR) 全身感染症に対する 40※明する。

効果を示す。1群5匹のマウスを用い、カンジダ・アルビカンス (*C. albicans* KYF-1385, 接種菌量, $2.6 \sim 7.2 \times 10^6$ 個/マウス) を腹腔内に感染させた。感染後、本発明化合物を 100mg/kg/day として4日間、1日2回、経口で投与した。

【0011】本発明化合物の有効性は無処置のコントロールと共に図1及び図2に示した。これらより明らかなように本発明化合物はコントロールに比べ有効である。

【0012】

【実施例】以下実施例をあげて本発明をさらに詳細に説※50

【0013】(実施例1)

2, 4-ジクロロ-6-(2-チエニル)イミダゾ

[1, 5-a]ピリミジン

2-(2-テノイルアミノメチル)-4, 6-ジヒドロキシピリミジン 1.3gにオキシ塩化リン10mlを加え、油浴上で3時間加熱還流する。余剰のオキシ塩化リンを減圧下留去した後、残渣に炭酸ナトリウム水溶液を加えクロロホルムで抽出する。クロロホルム層を水洗し、無水硫酸ナトリウムで乾燥する。クロロホルムを減圧留去し、残渣をアルミナカラムクロマトグラフィー (ベンゼ

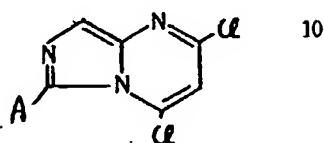
5
ン溶出)により精製し、さらにエタノールより再結晶す
ると黄色板状晶として目的物を0.56g得る。 * 融 点 152~153℃
* 【0014】

元素分析値 (C₁₀H₅ N₃ S Cl₂)

	C	H	N
計算値 (%)	44.46	1.87	15.56
実測値 (%)	44.32	1.67	15.56

【0015】実施例1と同様な方法で以下と化合物を得 ※【0017】
た。

【0016】



※

実施例	A	分 子 式	融 点 (℃)	元素分析値 (%)			計算値 実測値
				C	H	N	
2		C ₁₀ H ₅ N ₃ Cl ₂ S	146 ~ 147	44.46 44.25	1.87 1.68	15.56 15.68	
3		C ₁₀ H ₄ N ₃ Cl ₂ S Br	164 ~ 165	34.41 34.67	1.16 1.03	12.04 12.09	
4		C ₁₀ H ₄ N ₃ Cl ₃ S	166 ~ 167	39.43 39.29	1.32 1.16	13.80 13.99	
5		C ₁₁ H ₇ N ₃ Cl ₂ S	117 ~ 118	46.49 46.39	2.48 2.38	14.79 15.00	

【0018】次に中間体であるアシルアミノアルキルピリミジン誘導体(II)の製造法について以下の参考例で説明する。

【0019】(参考例1)

2-(2-テノイルアミノメチル)-4,6-ジヒドロキシピリミジン

(i) N-(2-テノイル)グリシンエチルエステル
グリシンエチルエステル塩酸塩22gおよび無水炭酸カリウム86gを水 600mlに溶解し、ベンゼン 600mlおよびエーテル 400mlを加え室温で攪拌する。2-テノイルクロライド25gをベンゼン 100mlに溶解した溶液を約30分間で滴下し、その後2時間室温で攪拌する。有機層を分液し、無水硫酸ナトリウムで乾燥後減圧下留去すると無色結晶を得る。これをエタノールより再結晶し無色プリズ★

元素分析値 (C₁₀H₉ N₃ O₃ S)

	C	H	N
計算値 (%)	47.80	3.61	16.72
実測値 (%)	47.83	3.67	16.90

★ム品として目的物を23g得る。

融 点 82~83℃

【0020】(ii) 2-(2-テノイルアミノメチル)-4,6-ジヒドロキシピリミジン

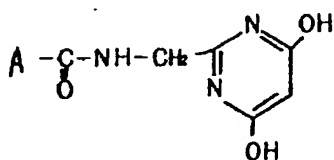
ナトリウム 1.4gをエタノール 120mlに溶解し、これにマロンアミド 3.8gを加え油浴上60℃で1時間攪拌する。N-(2-テノイル)グリシンエチルエステル8gをこれに加え6時間加熱還流する。エタノールを留去し残渣に水を加え酢酸で中和する。析出する結晶を濾取し、ジメチルホルムアミド(DMF)より再結晶して無色結晶として目的物を 2.8g得る。

融 点 270~275℃(分解)


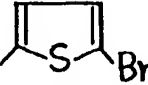
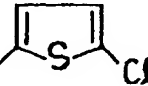
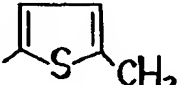
【0021】

【0022】参考例1と同様の方法で以下の化合物を得た。

【0023】



*

参考例	A	分子式	融点(°C)
2		$\text{C}_{10}\text{H}_9\text{N}_3\text{O}_3\text{S}$	> 300
3		$\text{C}_{10}\text{H}_8\text{N}_3\text{O}_3\text{BrS}$	250 ~ 255 (分解)
4		$\text{C}_{10}\text{H}_8\text{N}_3\text{O}_3\text{ClS}$	> 300
5		$\text{C}_{11}\text{H}_{11}\text{N}_3\text{O}_3\text{S}$	269 ~ 276 (分解)

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例3の化合物の経口投与によるマウス・カンジダ感染症における効果を示す図表である。

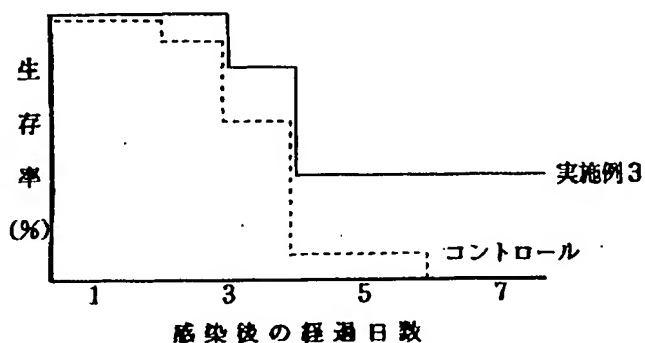
※【図2】実施例4の化合物の経口投与によるマウス・カンジダ感染症における効果を示す図表である。

※

【図1】

カンジダ・アルビカンス KYF-1385

2.6×10^6 個/マウス



【図2】

カンジダ・アルビカンス KYF-1385

 1.2×10^6 個/マウス